

ねがたびと

題字：降矢玄龍先生

第58号

発行日 令和7年9月8日

発行者 根形交流センター
(根形公民館)

袖ヶ浦市下新田 1277

TEL 0438-62-6161

“ねこまろ” 12年目を迎えました！

『ねこまろ』も、早いもので12年目を迎えました。

『ねこまろ』は、『ねがたこうみんかんに あつまろう』の中から4つの文字を取って名づけられました。活動内容は、根形小学校の子供たちが夏休みに根形交流センター(公民館)に集まり、勉強や様々な体験を根形地区の若者や大人達と共に行う活動です。今から12年前の新成人が「根形地域のために役に立ちたい」という思いをきっかけに、スタートした事業です。今では看板事業となり、新聞にも取り上げられ、多くの方に知られるようになりました。

今年の『ねこまろ』は、通常版を7月24・25日、特別版を8月9・23日に実施しました。通常版1日目には、小学校1年生から6年生までの19名、2日目には14名が参加しました。午前中は、夏休み中の宿題(漢字や計算ドリル、ポスター作りなど)を行い、午後はラダーゲッター、インドアーローンボウルズ、ボッチャの体験を行いました。参加した子どもたちからは「ラダーゲッターで、3箇所につっかけられたのが楽しかった。」「図書室や図工室(アトリエ)に行って自分の好きな勉強がやれた。」などの感想が寄せられました。

今回も、学生を中心とした若者のグループ(N.O.C【ねがた.オープン.キャンパスの略】)が、当日の運営を行い、高校生ボランティアや袖ヶ浦市レクリエーション協会、社会教育推進員、絵画サークルの皆さんの協力を得ながら、通常版を成功させました。ボランティアからは「最初すごく不安でしたが、子供たちと話したり、遊んでいくうちにとても楽しく、1日がアツという間に終わってしまいました。」などの声が聞かれました。



☞ 午前は静かに勉強



☞ インドアーローンボウルズに挑戦



☞ ラダーゲッターに挑戦



☞ 集合写真(7月24日)



☞ ボッチャに挑戦

ねこまろ 続きだよ！「特別版」

『ねこまろ』の特別版は、1日目（8月9日）には小学校1年生から6年生までの21名が、そして2日目（8月23日）には22名が参加しました。今年の特別版では、根形交流センターで活動している陶芸サークルの協力を得て、1日目に粘土で皿や小物などを成形し、2日目に釉薬をつけて色付けを行いました。また、2日目には青少年相談員と根形小PTAが作った焼きそばやかき氷を振る舞いました。参加した子供たちからは「ていねいに教えてくれた。お皿をかわいく、おしゃれに作ることができた。」といった感想をいただきました。

なお、この『ねこまろ』特別版は、根っ子の会（根形地区住民会議）との共催事業（根形わくドキ体験）として実施され、N.O.Cやボランティア、青少年相談員、根形小PTA、根っ子の会役員などの33名が参加・協力しました。地域の若者や子どもたち、そして大人たちが関わる、まさに多世代交流の場となっています。



👉 粘土でお皿や小物を作りました



👉 N.O.C、ボランティアと一緒に



👉 釉薬(色)つけに挑戦



第13回 ねがたファミリーコンサート

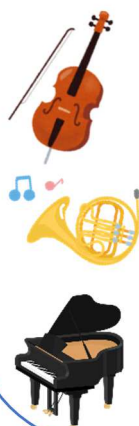


8月2日（土）、袖ヶ浦市出身のヴァイオリニスト小泉百合香さんとピアニスト鈴木奈津子さん、ホルン奏者大森啓史さんの3名によるアンサンブルコンサートを開催しました。このコンサートも回を重ねること13回となりました。小泉さん大森さんは、（公財）千葉交響楽団の団員として、鈴木さんはフリーのプロの演奏家として、幅広く活躍されています。

「ニコニコ教室（高齢者教室）」の講座生の他、地域住民など計84名の参観者がプロの泊力ある演奏に聴き入っていました。



『情熱大陸（葉加瀬太郎）』に始まり、『ジブリの音楽』、『浜辺の歌（成田為三）』、『夏の思い出（中田喜直）』、『エリーゼのために（ベートーヴェン）』、『ホルン協奏曲第1番（モーツァルト）』、『幻想曲より（シューベルト）』、『サウンド・オブ・ミュージックメドレー（ロジャーズ）』まで全10曲を演奏。子どもから大人まで楽しめる夢のようなひと時を過ごせました。「今回初めて聞かせていただいた。生演奏はいいですね。このような機会を与えていただき感謝いたします。心がやすまりました。」など、参観者から満足の声が届きました。





二十歳を祝う会

令和8年1月11日(日)開催します

「生まれ育った郷土に感謝し、社会の一員として力強く生きる気持ちを持つ」という目標を掲げ、袖ヶ浦市二十歳を祝う会を開催します。現在、二十歳を迎える若者を含めた実行委員で、式典に向け準備を進めています。



予告！

11/1(土)
11/2(日)

根形公民館まついを開催します！

根形交流センターで日頃活動しているサークルや地域の団体、根形保育所、根形小・中学校の作品展示や発表、即売会などを行います。また、親子陶芸・工作・油絵・料理・テニスの体験教室などの講習会もあります。詳しくは、市ホームページやチラシ等でご案内します。

ぜひ、お出かけの予定に入れてください。

模擬店も出店するよ！

いつかまたくる
災害に備えよう！



根形交流センターでは、「防災」をテーマに「地域人材育成講座」を開講しています。根形小・中学校の子供たちには、地域の一員として防災意識と知識を高め、自分たちにできる行動を学ぶことを目標に、学習を深めています。今年度小学校は、9月3日(水)午前防災に関する講話と模擬避難所の見学等を、中学校は12月2日(火)午後に防災に関する講話と学年別にワークショップ(1年パーテーション設営、2年心肺蘇生、3年かまどで火起こし)をそれぞれ実施する予定です。

また、地域の役員さん方を中心に「根形地区地域防災訓練」を開催し、避難訓練、避難所設営、非常食の作り方(パッキング)などを行ってきました。令和7年度の訓練は、令和8年2月に実施する予定で、現在その準備を進めています。訓練に関して何か提案などがありましたら、遠慮なく公民館までご相談ください。

66 市内にただ1つの陶芸教室の紹介

『唯一無二の湯飲みや茶碗を作ってみませんか?』

袖ヶ浦市内で根形交流センターにだけある、陶芸教室をご存じですか？

年間を通して21回(毎月2回)行われる成人初心者向けの教室です。根形交流センターの陶芸サークルで活躍しているベテラン陶芸家の丁寧な指導により、1年で驚くほど上達します。中には2年、3年と続けて教室に参加している方もいます。小皿や小鉢、湯のみ、茶碗、花瓶など、個々の技術に応じた唯一無二の作品作りができます。

また、出来上がった作品は、11月に行われる公民館まつりや3月に行われるサークル作品展に出展します。

受講料は、各自が使用する粘土代、講師料として年間17,800円程度かかります。陶芸に興味関心のある方、見学してみたい方は、根形交流センターにお問い合わせください。

なお、今年度の募集はすでに終了しています。毎年講座生の募集案内は、4月の広報に掲載されます。



根形歴史さんぽ 根形の弁才天さま

郷土博物館 稲木章宏

たくさんの人で賑わう袖ヶ浦公園を散歩すると、下池の遊歩道の一角に赤い鳥居が立ち、弁才さまが祀られていることに気づきます。お宮の前には、蛇の体と武士のような頭部をした弁才さまの案内板があり、一般に知られている姿と違うということがわかります。



弁才天というと、七福神のひとりであって、琵琶を抱え宝船に乗る女性の神として、よく知られていますが、本来は遠くインド、ヒンドゥ教のサラスヴァティという川の女神が仏教に取り入れられ成立したといわれます。日本に入ると、宗像三女神のひとり市杵島姫命（いちきしまひめのみこと）と習合し、そのまま女性の神として捉えられたようです。宗像大社は全国の厳島神社などの総本社とされ、子安信仰とも結ばれ、飽富神社には子育て弁

天の祠もあります。

さて、始めに話した袖ヶ浦弁才は、人頭蛇体の姿であることから、宇賀神^{うがじん}と呼ばれる神様であることが分かります。宇賀神は仏教の天部の仏、弁才天と習合し、宇賀弁才天として各地で見られます。左下の写真はその好例で木更津市曾根八幡神社の弁才さまです。頭に宇賀神と鳥居を載せていることから宇賀弁才天と分かります。

弁才天にはこの他に、琵琶を持たず、8本の手に武器を持つ武神性格を表すものもあります。下新田との境近く、三ツ作の坂でも、右手に剣、左手に宝珠を持つ武神的な弁才さまがいらっしゃいますが、静かに湧き出る水



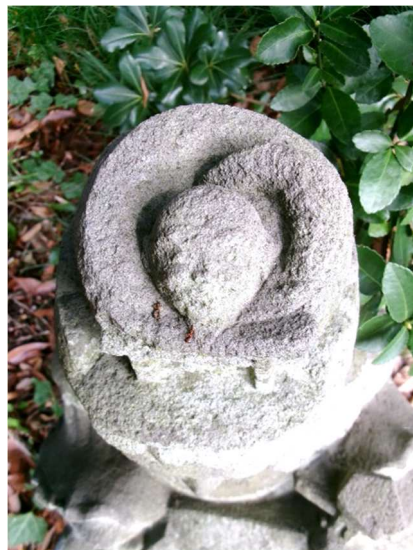
をお守りしている本来の水の神さまのように感じます。因みに、現在この弁才天さまの頭部には宇賀神は確認できません。

市内仏像

調査の報告書『袖ヶ浦の仏像・仏具』によると、三ツ作の竜門寺には、宇賀神を載せる宇賀弁才天がいらっしゃるようです。

*お詫び

『ねがたびと』第57号「根形歴史さんぽ」掲載の写真のうち下段中央及び右の標題が、印刷時に入れ替っておりました。お詫び申し上げます。



琵琶を持つ曾根八幡神社の弁才天と頭部の宇賀神